

令和元年度

日公連全国大会に参加して

事務局長 船越孝則

去る十月三十・三十一日に、岡山県連からの十三名と共に東京での日公連全国大会に参加しました。

まず、初日は国会議員への陳情活動を行い、約六千二百名の会員の皆様から預かった九千人分の署名を岡山県選挙区選出の国会議員十三名の先生方に届けました。参加者の班割り当てがあり、私は県本部赤坂社会保証部長、高梁西岩本支部長さんと三名で衆議院議員会館へ加藤勝信厚生労働大臣、津村啓介議員を訪ね、また、参議院議員会館の石井正弘参議院議員事務所を訪ねました。ご本人または秘書の方に丁寧に対応していただきました。

夕方は、国会議員の先生方との夕食懇談会があり、ご本人が十一人もご参加下さり、我々の願いに耳を傾けて下さったことは大変感動しました。またその中で国会議員の先生方から、去る九月の新見での集中豪雨のお見舞いのお言葉をいただきました。そのことは岡山県連のそして新見支部の存在意義を裏付けることとも言えるでしょう。

また、翌三十一日午前中は山下貴司衆議院議員秘書の安東裕一郎氏の案内で衆議院を中心に国会内を案内していただきました。我が国の政治の中心となる場所の見学は感慨深いものでした。午後は文京シビックホールでの全国大会に参加しました。開会に当たり津島会長から所信表明がありました。(五つのキャッチフレーズ)

○人生百年時代にふさわしい公務員の定年制の早期実現

○超高齢社会・人口減少社会に対応する社会保障制度の構築

○公務の特殊性・高齢者及び女性の就労に配慮した年金制度の確立

○豊かな経験と知識を生かした社会貢献活動への積極的参加

次に、来賓の国会議員を代表して伊吹文明氏、根本匠氏、細田博之氏から祝辞があり、その後、公益法人年金シニアプラン総合研究機構特別招聘研究員の坂本純一先生による「公的年金保険制度の明るい羅針盤」と題して記念講演がありました。

・厳しい環境が続く、しかし、羅針盤がある。(社会保障制度改革国民会議報告書、プログラム法、実施が遅れるほど効力が薄れ、孫・ひ孫の代で急激な給付削減が必要になる) ・世界も注目している。

等最新の情報とその経緯等について分かり易く希望の湧くお話をした。岡山県代表十四名で体験したことは、感慨深く想い出深い二日間となりました。



岡山県連からの参加者とともに

寄稿

二百一十一年の時空を超えて

山田方谷先生 幼少期の書額見つかる

高尾中分會 谷本洋一

郷里菅生での話である。新時代の令和元年を迎えた十月十三日、菅生地内では恒例の「三社女躰神社」秋季大祭が行われていた。当日私は、氏子当番として拜殿で参拝者に「お神酒」を振る舞う「ご神酒係」の任についていた。神事も終わり、地内を廻るため本神輿・子供神輿も境内の階段を下り、私の役目も中盤を迎えた頃、神官の神原一男宮司と千香順司禰宜さんが、「谷本さん何か分からんけえど、宿題を出しとくけえ」と言って、昨夏神官お二人が本殿の片づけをして見つけたと話される古びた板を拜殿に持って出られた。それには「うめ」と筆で書かれていた。

見た瞬間、これは山田方谷が幼少期の頃に書いたとされる大佐神社所蔵の板額「つる」(現在は大佐小南の山田方谷記念館に常設展示)にそっくりで



はないか。私は驚愕・驚嘆した。

その三社女躰神社の板額「うめ」は、栗板で縦九十二センチ、横三十五センチ、右側の能書きが「文化五年戊辰弥生吉祥日」、左側には「當國阿賀郡西方住丑年山田安五郎書之」、そして中央左下には四才筆と書かれ、可愛らしい手形が押されていた。

当日、山田方谷記念館の磯田耕治館長さんに「山田方谷幼少期の書」とのお墨付きを頂き、菅生公民館で「菅生西谷家歴史探訪」に取り組んだこともあって、菅生西谷家と大佐西谷家の強い繋がりが等、疑問であった思いの点と点が一本の線で繋がったような感動と感激を覚えた。

その後、マスコミにも広く報道されたので、今後、貴重な新史料として保存してもらいたいものである。そして、山田方谷略年譜にも、『文化五年(1808年)四才(母(梶)から文字を習う。大佐神社に書額「つる」を奉納』と加筆されることであろう。ちなみに、山田方谷は翌年(文化六年)1809年に五才で、新見藩儒丸川松隠の塾に入門し、学業に励みます。

当時は幕末、六十年後の1868年に江戸時代が終わり明治時代が始まることとなります。



発見当日の拜殿にて